

## 平成18年度三番瀬海生生物現況調査(底生生物及び海域環境)について

### 目的

三番瀬全体の海域において水質・底質環境及び底生生物生息状況の調査を行ない、過去の調査結果との比較をすることによって環境及び生物に変化があるかどうかを検討する

同調査は三番瀬の底生生物(マクロベントス)の生息状態、底質及び水質環境が補足調査時の状況から変化しているかどうかを確認することを目的とする。

調査は春(5月)、夏(8月)、秋(11月)、冬(2月)の4季を行う。

### 1 底質環境及びマクロベントス調査

三番瀬内100地点でスミスマッキンタイヤ型採泥器を用いて海底の表層を採泥、うち20地点では底泥下層部として10～30cm及び30～50cmの2層を採泥し、ともにマクロベントスと底質を調査する。

#### (1) マクロベントス調査

1mmの目合いの篩にのこった底生生物について種の同定及び個体数、湿重量の計測を行う。

アサリ、バカガイについては殻長の計測を行う。

#### (2) 底質調査

粒度組成、強熱減量

### 2 水質調査

三番瀬内外海域11地点で表層水(うち4地点は表層及び底層)を採水し、水質及び植物プランクトン・動物プランクトン(二枚貝幼生)を調査する。

#### (1) 水質分析

分析項目は水温、塩分、PH、溶存酸素、COD、全窒素、全リン及びクロロフィルaを行う。

#### (2) 植物プランクトン及び動物プランクトン

植物プランクトンは、種の同定、細胞数の計量を行う。

動物プランクトンは、種の同定、個体数の計量を行い、二枚貝幼生のうちアサリ幼生についてはモノクローナル抗体によるアサリ同定法によってアサリ幼生を同定し、個体数及び殻長の計測をおこなう。

### 3 解析・考察

底生生物の生息量、分布、貝類の殻長組成、底質環境及び水質環境が平成14年度調査やそれ以前の調査から変化しているかどうかを比較する。

変化が認められた場合には、その度合いを算出して変化の程度を評価し、その原因を考察する。